

令和2年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2022

甲州市教育委員会



令和2年度

# 市内遺跡発掘調査等事業報告書

2022

甲州市教育委員会



## 例　言

1. 本書は、令和2年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
2. 事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
3. 事業の期間は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までである。
4. 本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。
5. 勝沼氏館跡の調査にかかる基準点測量、空中写真撮影、遺構平面図作成は昭和測量株式会社に委託した。

## 凡　例

1. 本書中、各遺跡の調査地点を示した図（4ページ）は国土地理院発行の1/50,000地形図（御岳昇仙峡、丹波、都留）を改変して使用した。
2. 縮尺、方位等は各図中に示した。方位の無いものは真上北である。
3. 各遺跡の説明中にある「調査対象位置図」は、甲州市の都市計画図（1/2,500）を改変して使用した。

## 目 次

### 例言・凡例・目次

第1章 甲州市の埋蔵文化財保護について .....	1
1. 甲州市の埋蔵文化財包蔵地 .....	1
2. 埋蔵文化財の確認と届出・通知 .....	2
第2章 発掘調査等事業 .....	5
1. 渋沢 606-1 他 .....	5
2. 千手院前遺跡 .....	9
3. 勝沼氏館跡 .....	15
4. 風間氏屋敷 .....	36
5. 前田 1152-1 .....	39
6. 於曾屋敷遺跡 .....	43

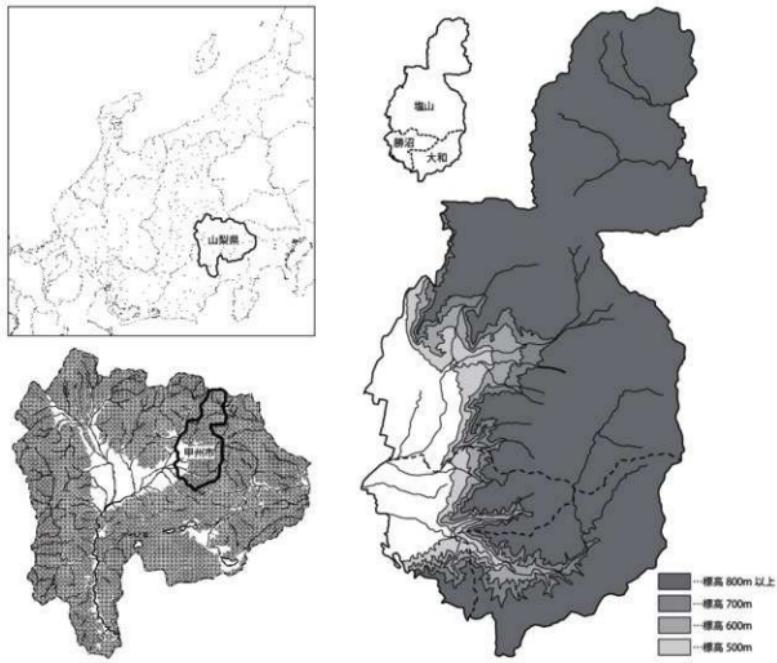
### 抄録・奥付

## 第1章 甲州市の埋蔵文化財保護について

### 1. 甲州市の埋蔵文化財包蔵地

甲州市は山梨県の北東部、甲府盆地の東端に位置する。西は山梨市、笛吹市に、東は丹波山村、小菅村、大月市に接し、北は埼玉県秩父市に接している。市域は東西約14km、南北約27.5kmと南北に長く、面積は26,411haである。市域の多くは山地であり、秩父多摩甲斐国立公園に指定されている大菩薩峠(1,897m)などの秩父山系、大菩薩山系が北部にあり、東部から南部にかけて黒岳(1,987.5m)をはじめとする富士・御坂山系が連なる。これらの山々から流れる笛吹川、重川、日川、饗櫛川によって複合扇状地が形成され、緩やかな斜面となって、市域の南西部に広がっている。この緩斜面は水はけが良く果樹栽培に適しているため、畑地として利用されているが、その一方で開発による市街地化も徐々に進んできている。

甲州市内に所在する埋蔵文化財包蔵地は373カ所を数える。地区ごとの内訳は塩山地区237、勝沼地区107、大和地区29、種別ごとの内訳は散布地226、城館跡42、集落跡32、塚29、社寺跡22、古墳9、鉱山跡6、その他7となっており、多くが市域南西部の扇状地上に立地しているが、大和地域では山腹斜面地上に立地する。



甲州市埋蔵文化財包蔵地内訳

地域	散布地	城館跡	集落跡	塚	社寺跡	古墳	鉱山跡	その他	合計
塩山	150	33	23	18	4	0	6	3	237
勝沼	48	9	8	11	18	9	0	4	107
大和	28	0	1	0	0	0	0	0	29
合計	226	42	32	29	22	9	6	7	373

甲州市は殿林遺跡、安道寺遺跡、町田遺跡、宮之上遺跡のような縄文時代の遺跡、西田遺跡のような古墳時代の遺跡のほか、中世の遺跡である於曾屋敷、勝沼氏館跡、黒川金山遺跡など、県や国の史跡にも指定され、歴史的に重要な遺跡の存在が知られている。このほか、近年、国道や市道の建設に伴って調査が行われた、ケカチ遺跡、坂之上・后畠遺跡、大木戸遺跡、五反田遺跡から奈良・平安時代の大規模な集落遺跡が発見されるなど、甲州市の古代史に関する考古学的データは、着実に蓄積されつつある。

## 2. 埋蔵文化財の確認と届出・通知

令和2年度の開発計画等に伴う埋蔵文化財包蔵地の問い合わせは407件を数えた。内訳は、個人住宅・店舗等、開発計画に伴うもの311件、不動産鑑定・売買調査に伴うもの96件である。なお、元年度の件数は333件であり、増加傾向となっている。

埋蔵文化財包蔵地確認の問い合わせを受け、周知の埋蔵文化財包蔵地内で開発の計画がある場合について、「埋蔵文化財発掘の届出・通知」（文化財保護法第93条及び94条）の提出を受け、以下のように対応した。93条は民間の開発行為に伴うもので、44件の届出があり、試掘調査3件、工事立会33件、慎重工事8件の対応を行った。なお、右表No.11の地点は当初は包蔵地外であったが、試掘調査の結果、遺跡の存在が認められたため、97条による発見の届出を行い、近接する千手院前遺跡の範囲を変更して、これに含めた。

千手院前遺跡は試掘調査後、教育委員会で作成した仕様に基づき、事業者と公益財団法人山梨文化財研究所が委託契約を結び、かつ事業者・教育委員会・発掘業者の三者で協定を結んだ上で、令和2年10月21日～令和3年1月20日にかけて本調査が実施された。調査対象面積435m<sup>2</sup>の中から遺構は竪穴住居跡13、土坑73、ピット89、溝6、集石3、配石1が検出され、遺物は縄文土器、石器、土偶、土製品、石棒など、コンテナ約45箱分相当が出土した。現在整理作業が進められており、本書とは別に報告書として刊行される予定である。

包蔵地外の開発行為のうち、対象地が包蔵地の近接地である場合、一定規模以上の開発面積を有する場合は、協議の上、現地踏査・試掘調査・工事立会等の確認調査を実施している。令和2年度の対象件数は6件で、試掘調査2件、工事立会3件、慎重工事1件の対応を行った。

また、国史跡勝沼氏館跡指定地内における遺構分布を確認するための発掘調査を1件実施している。

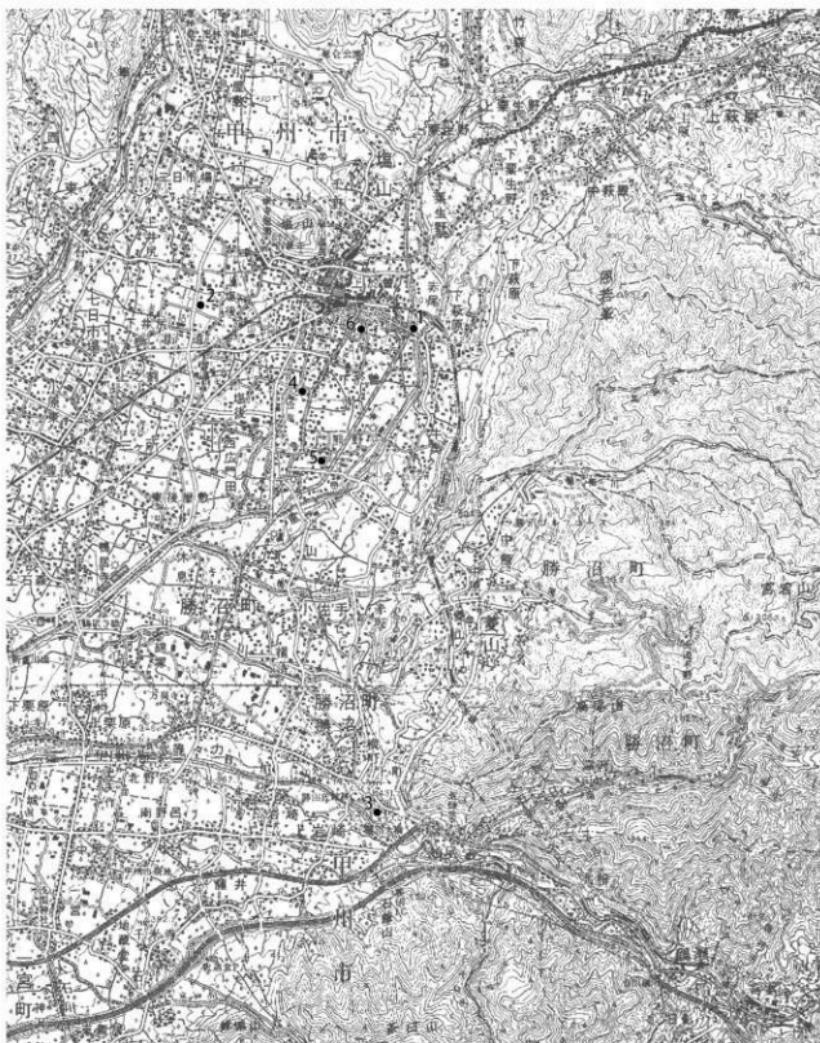
以上、市教育委員会で実施した6件の試掘・発掘調査について、報告する。

埋蔵文化財包蔵地内の開発と対応一覧

No	日付	遺跡名	対象地	工事目的	処置
1	R2.5.12	中堀 A 遺跡	塙山三日市場字中堀 1776	個人住宅	工事立会
2	R2.5.18	乙木田遺跡	塙山竹森字乙木田 1439 の一部	個人住宅	工事立会
3	R2.5.21	相ノ田遺跡	塙山上於曾 1919-3	個人住宅	工事立会
4	R2.6.12	相ノ田遺跡	塙山上於曾 1919-4	個人住宅	工事立会
5	R2.7.16	宮之前遺跡	塙山上塙後字宮ノ前 584-1	個人住宅	工事立会
6	R2.7.14	下整田遺跡	塙山熊野字石骨 844-3	農業用倉庫	工事立会
7	R2.8.6	西田遺跡	塙山西広門田字芦原田 266-4 ほか	個人住宅	工事立会
8	R2.8.6	依田宮内左衛門屋敷	塙山下於曾 634-2	宅地造成	工事立会
9	R2.8.14	大門後遺跡	勝沼町休息 1028 ほか	太陽光	慎重工事
10	R2.8.24	依田宮内左衛門屋敷	塙山下於曾字林際 634-1 他	電気	慎重工事
11	R2.10.13	千手院前遺跡	塙山上塙後 757-1 他	宅地造成	試掘・本掘
12	R2.9.7	千手院前遺跡	塙山下塙後 734-10	個人住宅	工事立会
13	R2.9.7	西原遺跡	大和町初鹿野字西原 1615-1	個人住宅	工事立会
14	R2.9.11	大門後遺跡	勝沼町休息 1780-1 の一部	車庫移転	慎重工事
15	R2.10.6	乙木田遺跡	塙山竹森字乙木田 1723-3	個人住宅	工事立会
16	R2.10.6	扇田 A 遺跡	塙山下於曾字扇田 1486-5	個人住宅	工事立会
17	R2.10.12	十組屋敷	塙山三日市場字東林 2671-1 の一部	個人住宅	工事立会
18	R2.10.15	知光田遺跡	塙山上塙後字知光田 237-9	個人住宅	工事立会
19	R2.10.19	宮之前遺跡	塙山上塙後字宮之前 584-8	個人住宅	工事立会
20	R2.10.20	依田宮内左衛門屋敷	塙山下於曾 634-15	個人住宅	工事立会
21	R2.11.2	地蔵塚遺跡	勝沼町勝沼字地蔵久保 893-1	農業用倉庫	工事立会
22	R2.10.14	千手院前遺跡	塙山上塙後字福林 729-2	個人住宅	工事立会
23	R2.11.12	於曾三郎屋敷	塙山上於曾 1631-6 ほか	個人住宅	工事立会
24	R2.11.16	依田宮内左衛門屋敷	塙山下於曾 634-15	個人住宅	工事立会
25	R2.11.16	西田遺跡	塙山西広門田字芦原田 267-1	個人住宅	工事立会
26	R2.11.16	町田遺跡	塙山下於曾字町田 1401-2	個人住宅	工事立会
27	R2.11.20	大門後遺跡	勝沼町休息字経塚 1765 ほか	車庫・事務所	工事立会
28	R2.11.20	宮之前遺跡	塙山上塙後字宮ノ前 584-3	個人住宅	工事立会
29	R2.12.2	宮之前遺跡	塙山上塙後字宮ノ前 584-5	個人住宅	工事立会
30	R2.12.7	於曾三郎屋敷	塙山上於曾 1631-6 ほか	個人住宅	工事立会
31	R2.12.11	風間氏屋敷	塙山下於曾字一／坪 903 ほか	宅地造成	試掘
32	R2.12.14	日川水制	勝沼町勝沼字上川久保 2561-10	店舗	慎重工事
33	R2.12.15	坂上遺跡	勝沼町休息字坂上 1253-8	駐車場	慎重工事
34	R2.12.15	北田中遺跡	勝沼町字北田中 428-1	事務所	工事立会
35	R3.2.1	天神原遺跡	大和町初鹿野 1426-1	太陽光	慎重工事
36	R3.2.10	五反田遺跡	塙山熊野字横井 562-1 ほか	倉庫	工事立会
37	R3.3.4	於曾屋敷遺跡	塙山下於曾 526-1 ほか	境界壁設置	試掘
38	R3.3.5	大塚北遺跡	勝沼町山字大塚 935-2	個人住宅	工事立会
39	R3.3.8	中村・余里遺跡	塙山上萩原字岩波 2 ほか	太陽光	慎重工事
40	R3.3.13	姥屋敷遺跡	勝沼町中原 931-11	電話・通信	慎重工事
41	R3.3.22	高林遺跡	塙山上塙後字高林 488-1 ほか	個人住宅	工事立会
42	R3.3.25	北原遺跡	塙山上井尻字北原 1673-1 ほか	個人住宅	工事立会
43	R3.3.26	塙下遺跡	塙山藤木字道間 1750-2	個人住宅	工事立会
44	R3.3.26	平城	塙山下萩原字北組 1859-3 ほか	個人住宅	工事立会

埋蔵文化財包蔵地外の開発と対応一覧

No	日付	対象地	工事目的	処置
1	R2.5.15	勝沼町中原地内	圃場整備、農道、水路	工事立会
2	R2.8.4	塙山赤尾字沢沢 606-1 ほか	店舗	試掘
3	R2.8.26	塙山上於曾 574	電気	慎重工事
4	R2.10.9	勝沼町勝沼字下町 3111-3 ほか	福祉施設	工事立会
5	R3.3.1	塙山熊野字前田 1152-1	社員寮（集合住宅）	試掘
6	R3.3.10	塙山下於曾字一／坪 873-1 ほか	倉庫・物置	工事立会



1. 渋沢 606-1他 2. 千手院前遺跡 3. 勝沼氏館跡 4. 風間氏屋敷 5. 前田 1152-1 6. 於曾屋敷遺跡

令和2年度市内遺跡発掘調査地点

## 第2章 発掘調査等事業

### 1. 渋沢 606-1 他

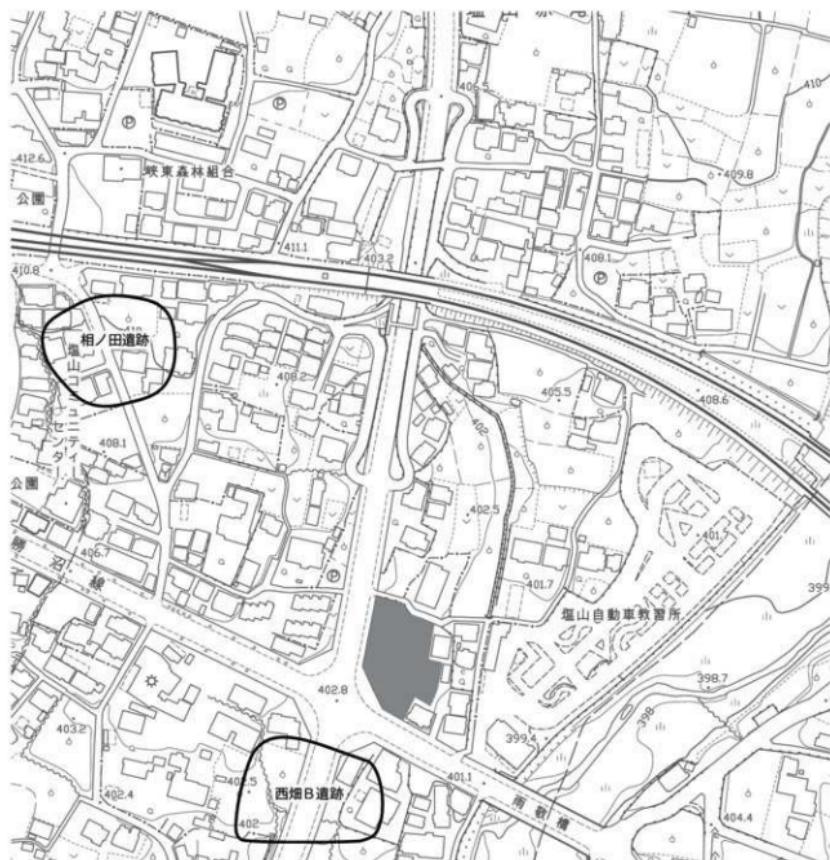
- (1) 所在地 甲州市塩山赤尾字渋沢 606-1、609-1
- (2) 調査面積 8.9m<sup>2</sup>
- (3) 調査期間 令和2年8月4日～7日
- (4) 調査原因 店舗建設
- (5) 調査結果

当地は埋蔵文化財包蔵地の範囲には含まれていないが、西畠B遺跡（縄文・中世）に近接した位置関係にある。店舗建設に際して遺跡が不時発見され、工事が中断する事態が発生することの無いように、協議の上、事前に試掘調査を実施して遺跡の残存状況を確認することとなった。対象敷地内に2ヶ所のトレンチ(A・B)を設定して調査を行った。

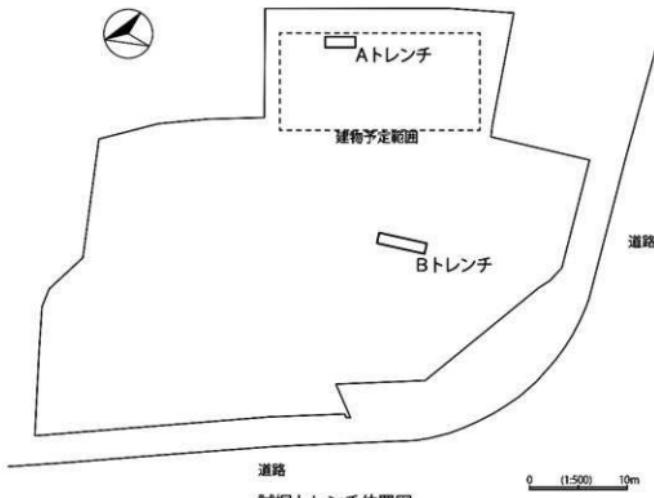
Aトレンチは店舗の建設が予定されている地点に、3.1m×1.1mで設定した。地表下1mまで掘削したところ、地山と考えられる暗茶褐色土(4層)が検出されたため精査を行ったが、遺構・遺物とも検出されなかった。

Bトレンチは駐車場が予定されている地点に、5.0m×1.1mで設定した。地表下1.3mまで掘削したところ、地山と考えられる明褐灰色砂(4層)が検出されたため精査を行ったが、遺構・遺物とも検出されなかった。

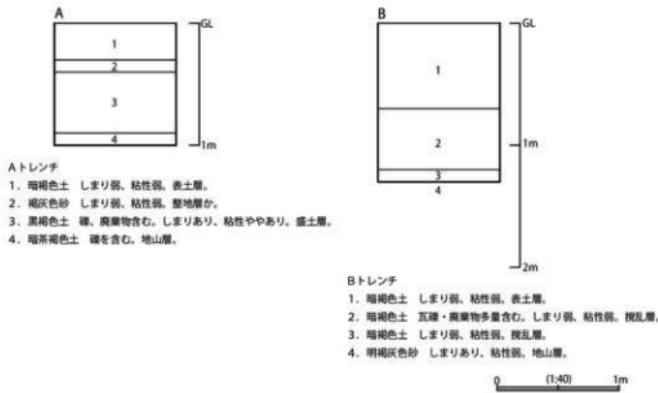
調査の結果、遺構および遺物は確認されなかった。地山直上の土層には現代の瓦礫が含まれており、近年の造成(盛土・削平)が著しい状況が確認された。中世までに堆積したと考えられる土層は残存しておらず、敷地全体がこのような状況であると推定される。以上のことから敷地内に遺跡の存在は認められず、本調査は実施しないこととした。



調査対象位置図



試掘トレーニング位置図



A・B トレーニング断面図



A トレンチ調査前（南から）



A トレンチ確認状況（南から）



A トレンチ土層断面（東から）



B トレンチ調査前（南から）



B トレンチ確認状況（南から）



B トレンチ土層断面（西から）

## 2. 千手院前遺跡

- (1) 所在地 甲州市塙山上塙後字千手院前 757-1、759、759-2、760、762、787-1、791-1、793-1
- (2) 調査面積 32.7m<sup>2</sup>
- (3) 調査期間 令和2年8月25日～9月1日
- (4) 調査原因 宅地造成
- (5) 調査結果

当地は埋蔵文化財包蔵地の範囲には含まれていないが、東側の千手院前遺跡（縄文）、北西側の秀森前遺跡に挟まれた位置関係にある。宅地造成に際して遺跡が不時発見され、工事が中断する事態が発生することの無いように、協議の上、事前に試掘調査を実施して遺跡の有無および残存状況を確認することとした。

対象敷地内に5ヶ所のトレント（A～E）を設定して調査を行った。敷地北側のトレントをA・B、中央付近をC・D、南側をEとした。

Aトレントは4.8m×1.3mで設定した。地表下0.9mまで掘削し、地山と考えられる暗黄褐色土上で遺構精査を行った結果、溝1本、ピット（小穴）1基を検出した。遺物は縄文土器片が出土している。

Bトレントは4.4m×1.2mで設定した。地表下1mまで掘削し、地山と考えられる暗黄褐色土上で遺構精査を行った結果、土坑1基を検出した。遺物は縄文土器片が出土している。

Cトレントは6.3m×1.3mで設定した。地表下1mまで掘削し、地山と考えられる暗黄褐色砂上で遺構精査を行った結果、竪穴状遺構を検出した。竪穴状遺構は複数の遺構が重複しているものと考えられる。遺物は縄文土器片、石器片が出土している。

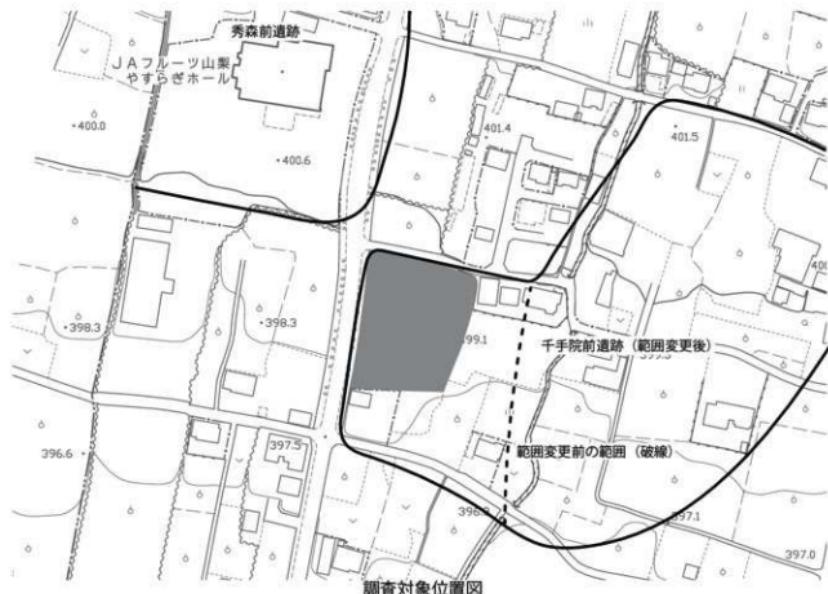
Dトレントは6.3m×1.2mで設定した。地表下1.2mまで掘削し、地山と考えられる暗黄褐色土上で遺構精査を行った結果、土坑2基を検出した。遺物は縄文土器片が出土している。

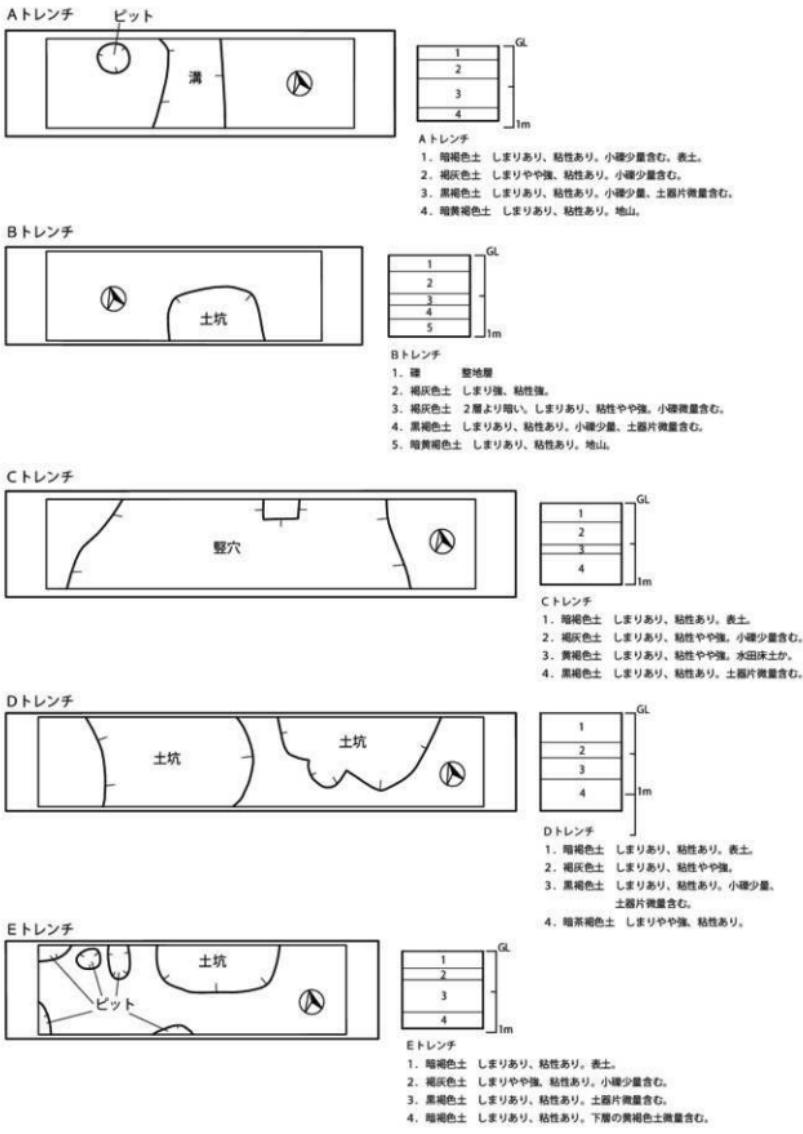
Eトレントは4.6m×1.2mで設定した。地表下0.9mまで掘削し、地山と考えられる暗黄褐色土上で遺構精査を行った結果、土坑1基、ピット5基を検出した。遺物は縄文土器片が出土している。

調査の結果、設定した全てのトレントから縄文時代に属すると推定される遺構・遺物が検出された。今回の調査地は包蔵地外（近接地）であったが、文化財保護法第97条に基づく発見の届出を行い、近接する千手院前遺跡の包蔵範囲を変更し、これに含めることとした。

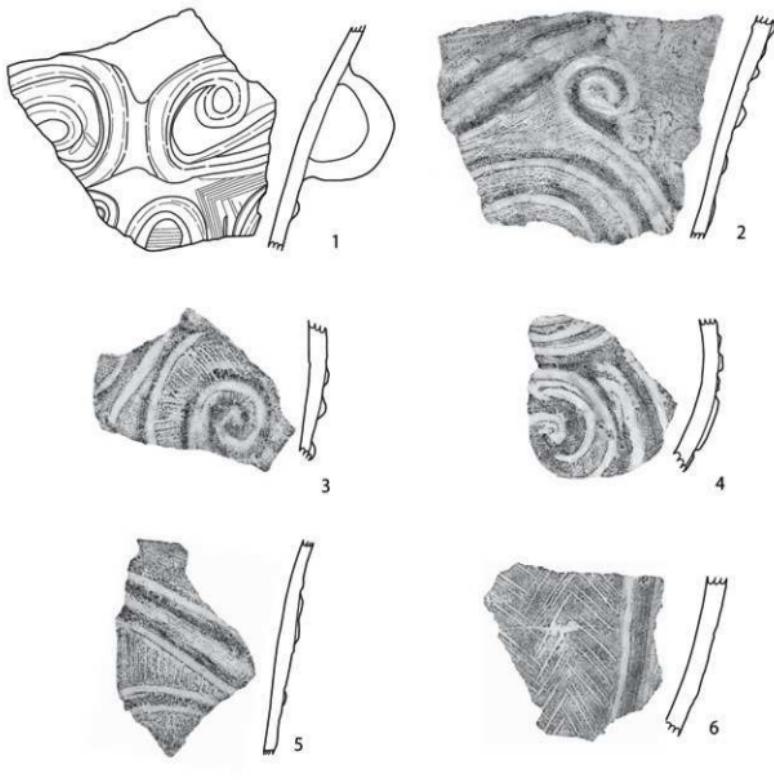
試掘調査出土遺物のうち6点を図示した。1～5はAトレント、6はEトレントで、いずれも遺構確認面上の黒褐色土から出土している。いずれも縄文中期後半と考えられる。

なお、本調査は進入路・擁壁設置部分を中心とした435m<sup>2</sup>を対象に、令和2年10月～令和3年1月まで実施された。発見された遺構は竪穴住居跡13軒、土坑73基、ピット89本、溝6本、集石遺構3基、配石1基であり、遺物は縄文土器、石器、土偶ほか土製品、石棒等、コンテナ45箱分が出土した。報告書は本書とは別に刊行予定である。





A～E トレンチ平断面図



千手院前遺跡出土遺物

0 (1:3) 10cm

千手院前遺跡出土遺物観察表

番号	出土地点	種別	器種	残存	内面	外面	胎土	含有物	色調	焼成
1	A トレンチ	土器	深鉢	胴部	ナテ	隆線、沈線	やや密	金・白色粒子	黄褐	やや良
2	A トレンチ	土器	深鉢	胴部	ナテ	隆線、沈線	やや密	金・白色粒子	にぶい褐	やや良
3	A トレンチ	土器	深鉢	胴部	ナテ	隆線、沈線	やや密	金・白色粒子	明黄褐	やや良
4	A トレンチ	土器	深鉢	胴部	ナテ	隆線、沈線	密	金・白色粒子	明赤褐	良
5	A トレンチ	土器	深鉢	胴部	ナテ	隆線、沈線	やや密	金・白色粒子	にぶい黄褐	やや良
6	E トレンチ	土器	深鉢	胴部	ナテ	隆線、沈線	密	金・白・赤色粒子	にぶい赤褐	良



A トレンチ遺構検出（西から）



A トレンチ土層断面（南から）



B トレンチ遺構検出（東から）



B トレンチ土層断面（南から）



C トレンチ遺構検出（西から）



C トレンチ土層断面（南から）



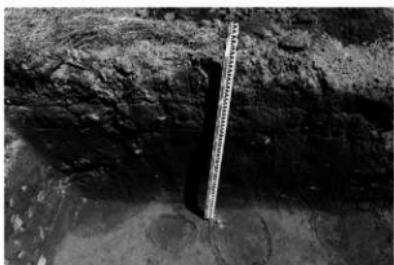
D トレンチ遺構検出（西から）



D トレンチ土層断面（南から）



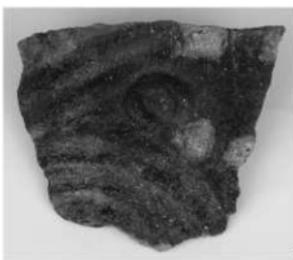
E レンチ遺構検出（西から）



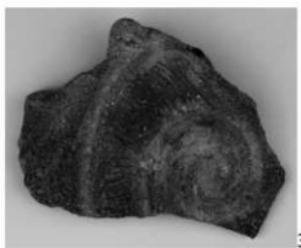
E レンチ土層断面（南から）



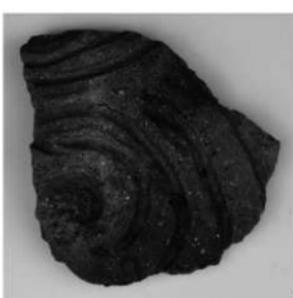
1



2



3



4



5



6

### 3. 勝沼氏館跡

(1) 所在地 甲州市勝沼町勝沼 2456、2420、2421 (史跡勝沼氏館跡指定地内)

(2) 調査面積 98.3m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 令和2年12月7日～令和3年3月3日

(4) 調査原因 確認調査

(5) 調査結果

勝沼氏館跡は甲州市勝沼町勝沼に所在する国の史跡であり、昭和48～52年にかけて発掘調査が行われ、昭和56年に国史跡として指定を受けた後、史跡整備事業が実施され、これまでに内郭と東郭の一部に対して遺構の復元整備が行われてきた。今回調査対象とした勝沼2456、2420、2421は平成29・30年度に公有地化が行われた地点で、今後の史跡整備に向けてどのような遺構が埋蔵しているか確認するために調査を実施した。

今回調査を実施した調査区は2ヵ所に分かれる。このため便宜上、2420・2421番地をI区、2456番地をII区と呼称し、以下に調査の概要を記述する。いずれも館の外側である郭外地区にあたり、館に関連する施設の存在が想定されている地区となっている。

I区は指定地の南東端に位置する地点で、日川を臨む断崖上の端部にあたる。I区の西側には日川の河原まで下る小道が葛籠折り状に伸びている。山梨県教育委員会ほか『勝沼氏館跡調査概報Ⅲ』(1978年)によれば「日川の右岸から岩崎方面に渡る古道は、幾筋があるが、館跡に直接関係のあるものは、(中略)南に屈曲しながら日川の河川敷に下る通路が直接結びつく中世の古道である。」としている。またこの小道の西側の崖淵にはかつて昭和30年代まで10m四方くらいの土盛の高台があり、付近の人は太鼓やぐらと呼んでいたという。内郭にも太鼓やぐらとよばれる地点があり、いずれも通信施設として機能していたと考えられている。以上のように小道、太鼓やぐら跡(消滅)に近接するI区は、これらに関連する遺構の存在が想定された。

I区で調査を行ったトレーナーはA～Kの11ヵ所である。トレーナーは2m×2m程度で設定することを基本としたが、必要に応じて拡張を行っている。

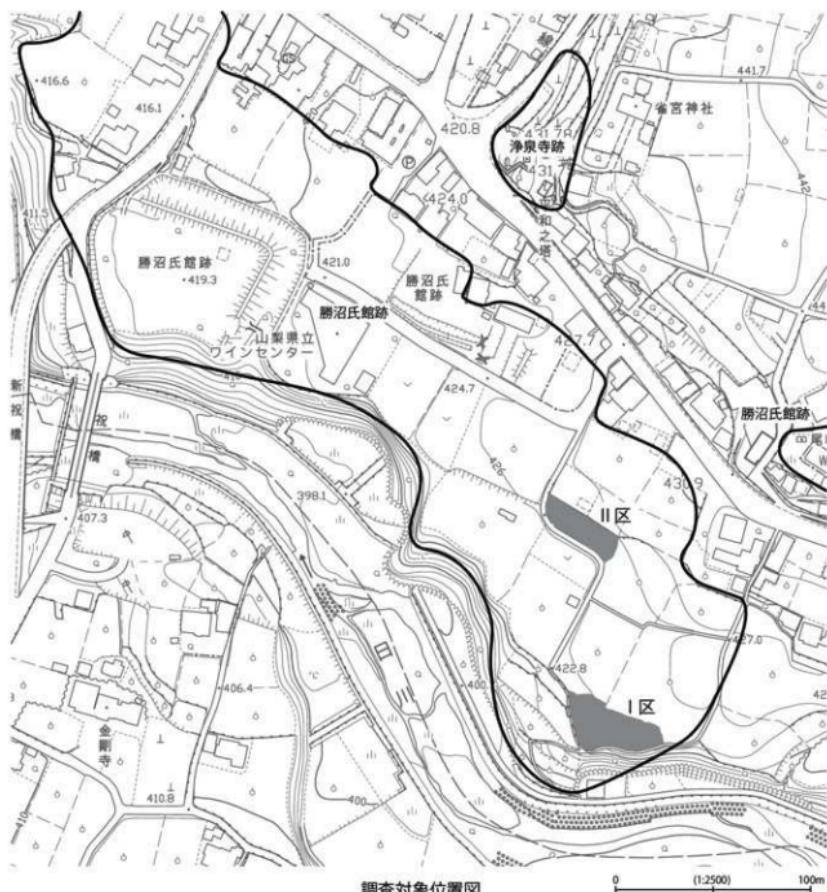
Aトレーナーは2.8m×3.5mの規模で調査を行った。地表下20cmで径1mを超える大きさの礫を含む暗褐色土層が検出された。遺構は確認されなかった。遺物は土器・陶器・磁器・瓦などの小破片が出土した。

Bトレーナーは3.9m×4.0mの規模で調査を行った。地表下40～50cmで黄褐色砂質土を検出し、この面で遺構精査を行ったが、遺構は確認されなかった。トレーナー北西隅部分から鉄分を含む砂層が検出しており、流路跡と考えられる。遺物は土器・陶器・磁器などの小破片が出土した。土器は摩耗が著しい。

Cトレーナーは2m×2mの規模で調査を行った。地表下50cmで礫を含む赤褐色砂質土が検出され、遺構は確認されなかった。遺物は土器・磁器・陶器などの小破片が出土した。

Dトレーナーは3m×3mの規模で調査を行った。地表下40～50cmで礫を含む黄褐色砂質土が検出され、遺構は確認されなかった。遺物は土器・陶器・磁器・瓦・水晶などの小破片が出土した。

Eトレーナーは3m×3mの規模で調査を行った。地表下30cmで礫を含む黄褐色砂質土が検出され、遺構



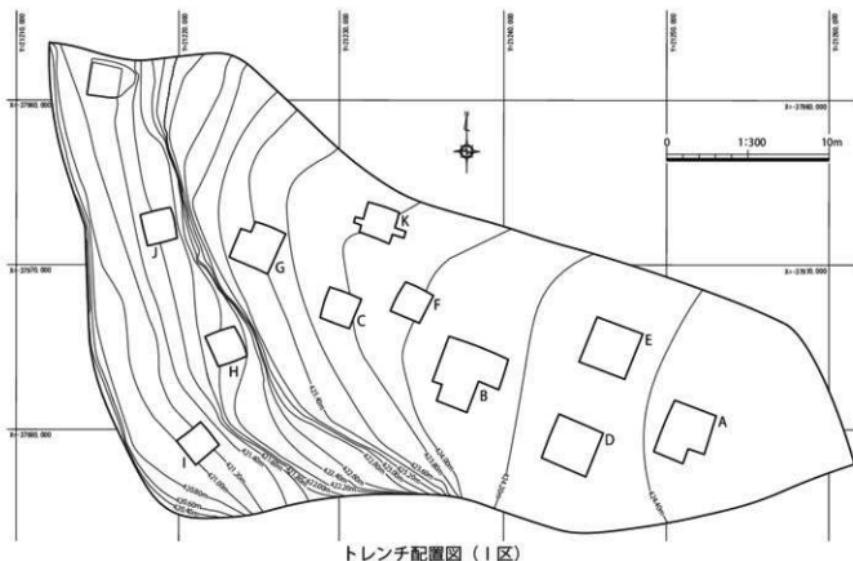
は確認されなかった。遺物は土器・陶器・磁器・瓦などの小破片が出土した。

F レンチは 2m × 2m の規模で調査を行った。地表下 70cm で礫を含む黄褐色砂質土が検出され、遺構は確認されなかった。遺物は磁器小破片が出土している。

G レンチは 2.7m × 2.7m の規模で調査を行った。レンチ北半では地表下 30cm で礫を含む黄褐色砂質土が検出された。南半は落ち込みがあり、黒褐色土が堆積していた。遺物は土器小破片が出土しており、黒褐色土中から土師質皿 1 点が出土した。

H レンチは 2m × 2m の規模で調査を行った。地表下 20 ~ 30cm で礫を含む黄褐色砂質土が検出され、遺構は確認されなかった。遺物は土器小破片 1 点が出土している。

I レンチは 1.9m × 1.9m の規模で調査を行った。地表下 40 ~ 50cm で礫を含む黄褐色砂質土が検出



トレンチ配置図（I区）

され、遺構は確認されなかった。遺物は土器・磁器小破片の他、ガラス製の薬瓶1点が出土した。

Jトレンチは2m×2mの規模で調査を行った。地表下30～40cmで礫を含む黄褐色砂質土が検出され、遺構は確認されなかった。遺物は土器・磁器・土鉢（近世以降）の小破片が出土した。

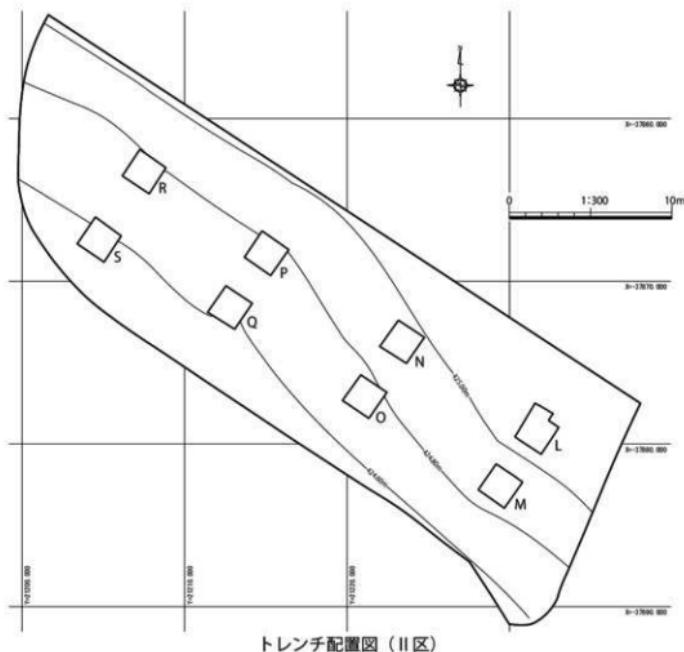
Kトレンチは2m×2mの規模で調査を行った。地表下30cmで礫を含む黄褐色砂質土が検出され、遺構は確認されなかった。遺物は土器・磁器の小破片が出土した。

I区で設定した調査区からは遺構は検出されなかった。いずれのトレンチも表土下からすぐに礫を含む黄褐色砂質土が検出されており、近世以降に畑地となるまで造作の痕跡はなく、土地利用はされていなかったと推定される。遺物は確実に中世段階まで遡れるものはGトレンチから出土した土師質皿1点のみで、土器は小破片で摩耗が多くみられるため、時期・器種などが判然としないものが多いが、古代、近世段階（土製焜炉目皿など）のものがみられる。磁器、陶器も小破片で近世・近代段階のものであろう。いずれにしても遺構に伴うものではなく、周辺からの流れ込みと考えられる。

II区はI区の北西に位置し、I区の西側を通る小道を少し北上し、西側に折れたところの北側一帯にあたる。II区の北側及び南側は平成29年度に確認調査を行っており、一段高い北側の敷地では遺構は確認されず、風化した花崗岩を主体とした砂礫層となっていた。南側では近世以降の水田層の他、ピットや溝などの遺構が確認されている。

II区で調査を行ったトレンチはL～Sの8カ所である。トレンチは2m×2m程度で設定することを基本としたが、必要に応じて拡張を行っている。

Lトレンチは2.4m×2mの規模で調査を行ったところ、南北方向に延びる石積が検出された。石積は乱



積みで西側に面を向いている。残存高50cm、トレンチ内で確認された長さ1.5mで、南側はトレンチ外に延びている。北側は石積みを構成したと考えられる礫が見つかっているが、崩れており、石積の体をなしていない状態であった。石積の性格として溝、水溜などの遺構が考えられるが、トレンチ内および他のトレンチからはこれに対応する石積は発見されていない。現在の敷地境界とは異なるが、東側畠地との旧境界をなす石積で、調査区周辺でみられる石積と同じく、近現代の所産と考えたい。表土は他のトレンチと比べて、礫が多量に混入しており、本来地上にあった石積を削平し、整地時に埋めたものと考えられる。遺物は土器、石器（水晶・黒曜石）の小破片が出土した。

Mトレンチは2m×2mの規模で調査を行った。トレンチの北半では地表下80cmで礫を含む黒褐色土層が検出された。この層は南側では地表下1.1mで確認されることから深く落ち込んでおり、本層形成時には現状よりだいぶ傾斜していたと考えられる。遺構は確認されていないが、先述のLトレンチと同様に表土中に礫が多量に混入しており、地上にあったと考えらえ石積の一部が埋没している。遺物は土器・陶器・水晶の小破片が出土した。陶器は碗2点（瀬戸美濃）、甕1点（常滑）である。

Nトレンチは2m×2mの規模で調査を行った。表土の下は旧水田の床土層が堆積しており、その下は礫を含む黒褐色土が堆積していた。遺構は確認されていない。遺物は、表土～床土層までは土器・磁器・ガラスの小破片が出土している。土器は縄文土器・土師器が確認されている。黒色土層からは土器の小破片が出

土しており、ほとんど縄文土器の破片（縄文前期・中期）となっている。

Oトレンチは2m×2mの規模で調査を行った。Nトレンチと同様の堆積状況で、礫を含む黒褐色土層まで調査を行ったが、遺構は確認されなかった。遺物は土器（縄文・土師器）・須恵器・磁器・陶器・ガラスの小破片が出土している。

Pトレンチは2m×2mの規模で調査を行った。N・Oトレンチと同様の堆積状況で、礫を含む黒褐色土層まで調査を行ったが、遺構は確認されなかった。遺物は土器・陶器・磁器の小破片がほとんどであるが、黒色土上面から完形の土師質皿1点が出土している。

Qトレンチは2m×2mの規模で調査を行った。N・O・Pトレンチと同様の堆積状況で、礫を含む黒褐色土層まで調査を行ったが、遺構は確認されなかった。遺物は土器（縄文・土師器）・磁器・ガラスの小破片が出土している。

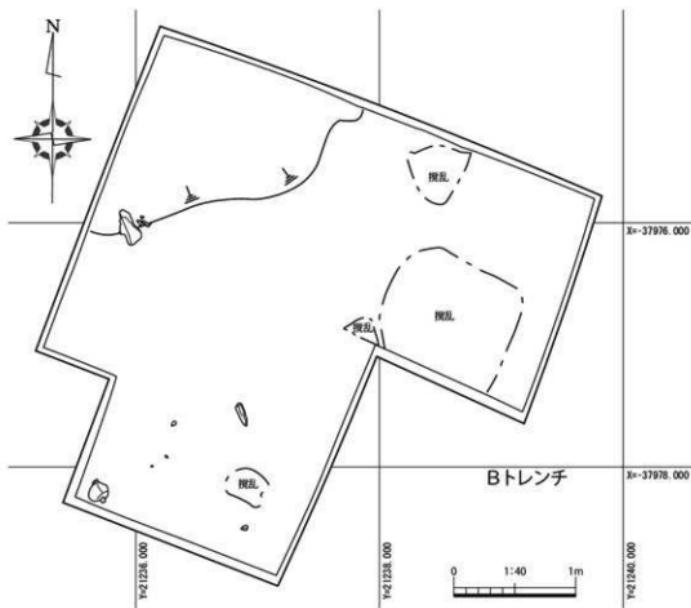
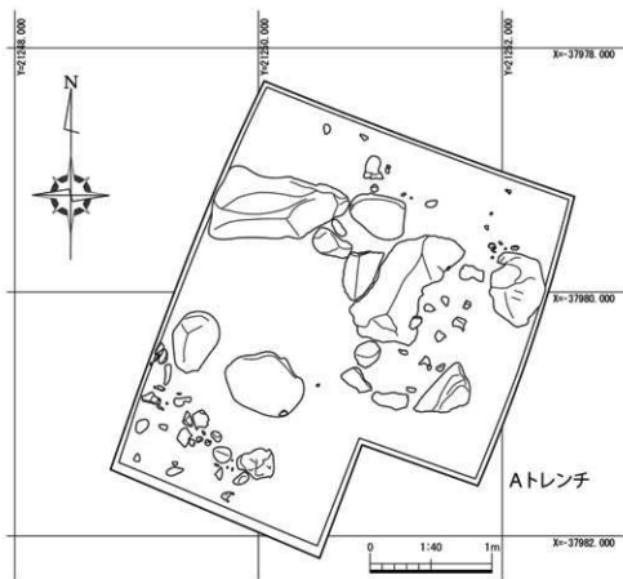
Rトレンチは2m×2mの規模で調査を行った。N・O・P・Qトレンチと同様の堆積状況で、礫を含む黒褐色土層まで調査を行ったが、遺構は確認されなかった。遺物は土器・陶器・磁器・瓦・ガラスの小破片が出土している。

Sトレンチは2m×2mの規模で調査を行った。N・O・P・Q・Rトレンチ同様の堆積状況で、礫を含む黒褐色土層まで調査を行ったが、遺構は確認されなかった。遺物は土器・陶器・磁器・ガラスの小破片が出土している。

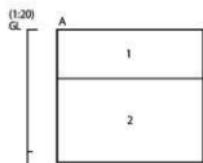
II区では全体に同様の土層堆積状況が確認され、表土（耕作土）、水田床土、礫含む黒色土が堆積していた。黒色土では縄文・土師器が主体となっており、縄文～古代の遺物包含層と考えられる。一部に磁器・陶器等、新しいものもみられるが散発的な混入遺物と思われる。Lトレンチで石積の一部が検出されたが、これは近現代以降のものと考えられ、中世段階まで遡る確実な遺構は確認出来なかった。遺物も中世段階のものと考えられる遺物は極めて少なく、Mトレンチで確認された瀬戸美濃の陶器片や、Pトレンチで確認された完形の土師質皿のみである。水田の年代が問題になるが、近世～近代以降の遺物の混入が多く、明治頃にはこの一帯がぶどう畠として利用されていることから、近世段階のものと思われる。

遺物は3点を図示した。いずれも土師質皿で、1はGトレンチの落ち込みに堆積した黒褐色土中、2はPトレンチ黒色土層上面、3はOトレンチ黒色土層上面から出土しており、遺構に伴うものではないが、中世の所産と考えられる。

I・II区で実施した遺構確認調査については上述の通りである。部分的な掘削であるとはいえ、敷地に対して網羅的にトレンチを配置し調査を実施してきた。しかしながら調査成果としては、遺構の存在を裏付ける結果とはならず、今回調査対象とした両地区とも遺構が存在しない地点であると結論付けざるを得ない。これら無遺構地点の性格については、今後さらなる調査を周辺で実施することにより、解明されていくことが期待される。

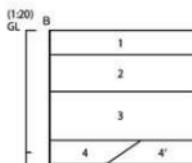


A・Bトレンチ平面図



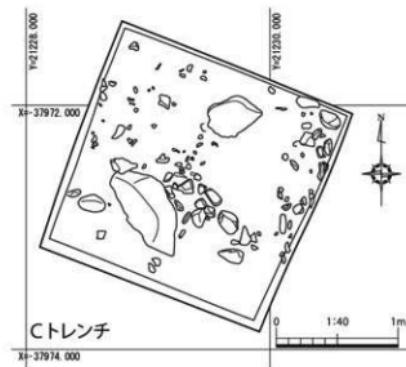
Aトレンチ

1. 灰褐色土 径 1cm 未満の小石、砂を少量含む。
2. 暗褐色土 径 1m 以上の礫を含む。

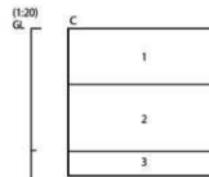


Bトレンチ

1. 灰褐色土 径 1cm 未満の小石、砂を少量含む。
2. 暗褐色土 径 1~2cm の小石を少量含む。
3. 赤褐色土 径 3~5cm の小石、砂を少量含む。
4. 黄褐色砂 粘性弱。4'. 黄褐色砂質土

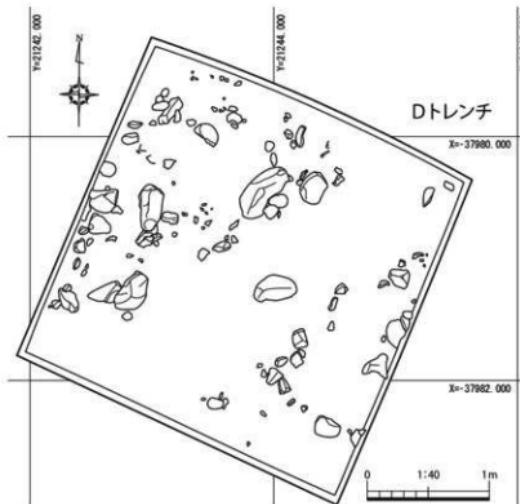


Cトレンチ

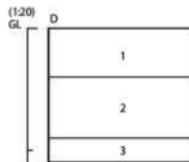


Cトレンチ

1. 灰褐色土 径 1cm 未満の小石、砂を少量含む。
2. 暗褐色土 径 1~2cm の小石を少量含む。
3. 赤褐色砂質土 径 3~5cm の小石、砂を少量含む。



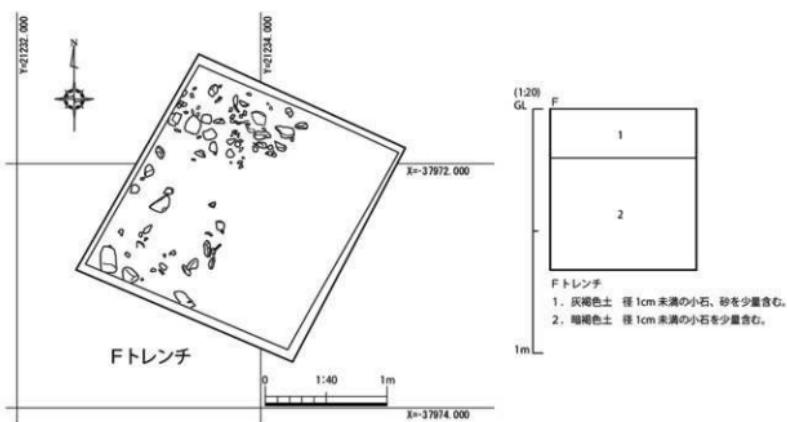
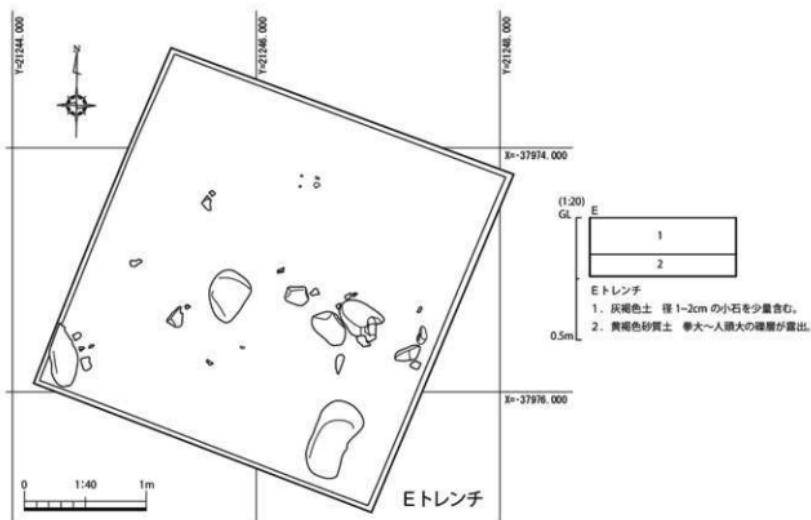
Dトレンチ



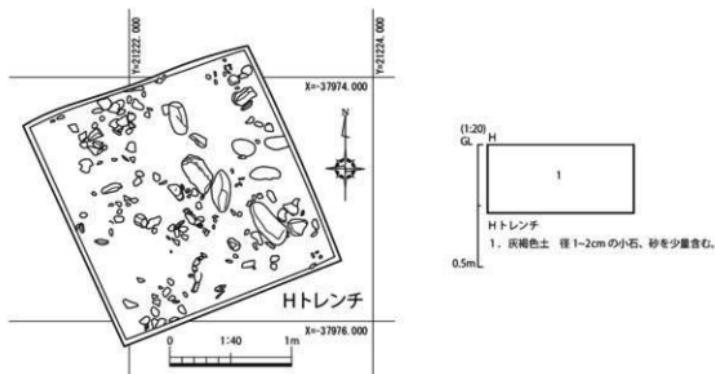
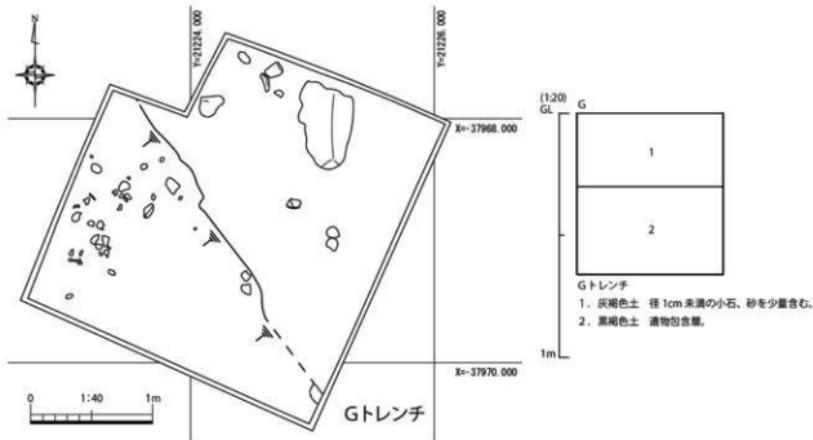
Dトレンチ

1. 灰褐色土 径 1~2cm の小石を少量含む。
2. 暗褐色土 径 1~2cm の小石を少量含む。
3. 黄褐色砂質土 奉太の根筋が露出。

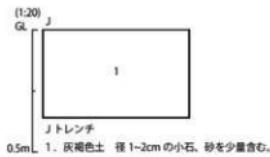
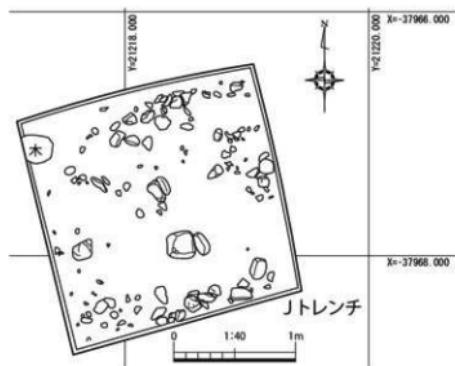
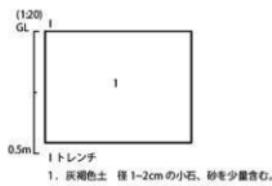
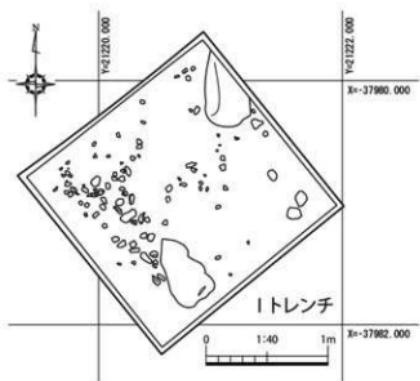
A・Bトレンチ断面図 C・Dトレンチ平断面図



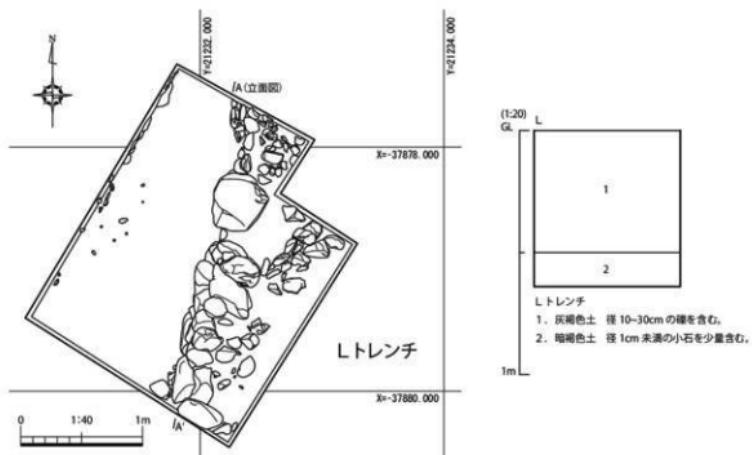
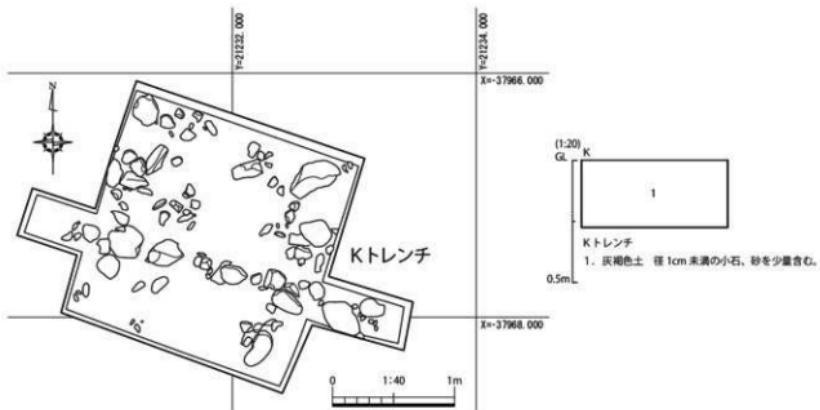
E・F トレンチ断面図



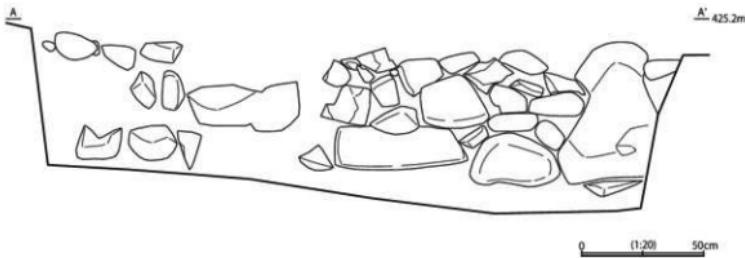
G・H トレンチ平断面図



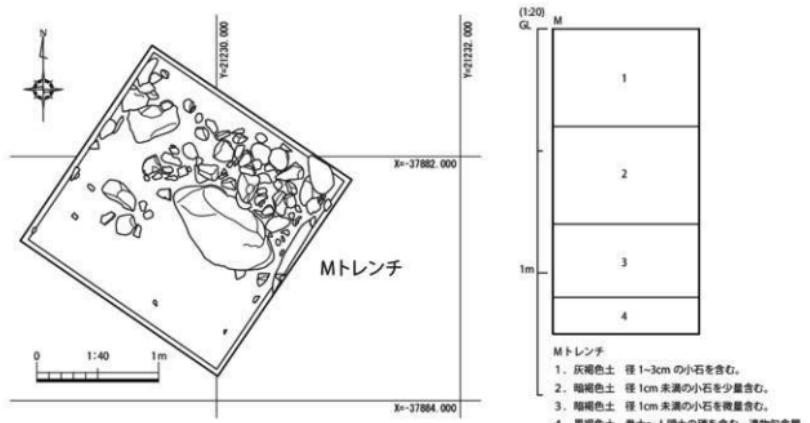
I・J トレンチ平断面図



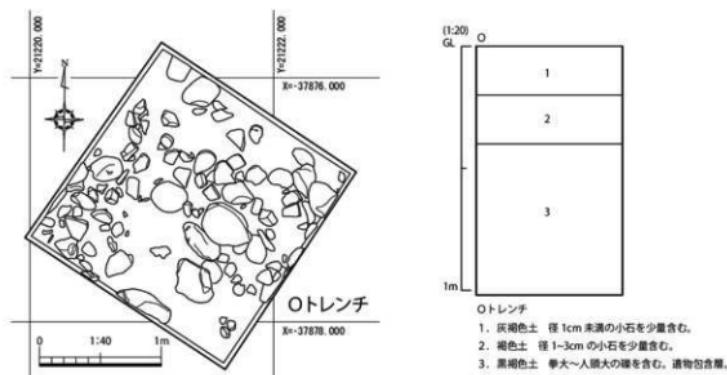
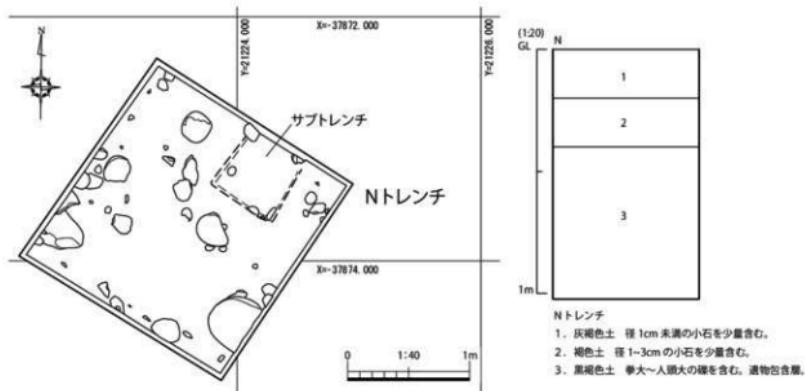
K・Lトレンチ平断面図



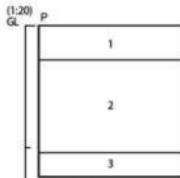
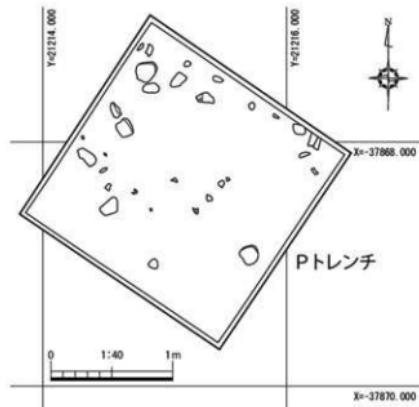
L トレンチ石積立面図



M トレンチ平断面図

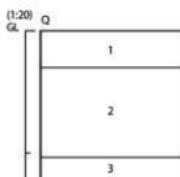


N・Oトレンチ平断面図



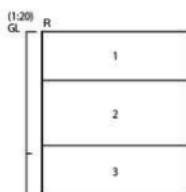
P トレンチ

1. 灰褐色土 径 1cm 未満の小石を少量含む。
2. 褐色土 径 1~3cm の小石を少量含む。
3. 黒褐色土 拳大~人頭大の礫を少量含む。遺物包含層。



Q トレンチ

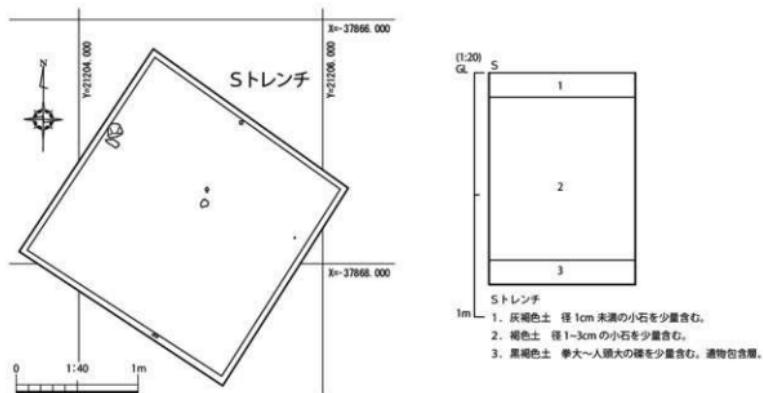
1. 灰褐色土 径 1cm 未満の小石を少量含む。
2. 褐色土 径 1~3cm の小石を少量含む。
3. 黑褐色土 拳大~人頭大の礫を少量含む。遺物包含層。



R トレンチ

1. 灰褐色土 径 1cm 未満の小石を少量含む。
2. 褐色土 径 1~3cm の小石を少量含む。
3. 黑褐色土 拳大~人頭大の礫を少量含む。遺物包含層。

P・Q・R トレンチ平断面図



S トレンチ平断面図



勝沼氏館跡出土遺物観察表

番号	出土地点	種別	器種	残存	法量 (cm)		調整	胎土	含有物	色調	焼成
					口径 / 底径	器高					
1	G トレンチ	土師質	皿	底部～口縁、摩耗	(9.8)/4.2/2.3		回転横ナデ、静止糸切り	密	金・白色粒子	赤褐	良
2	P トレンチ	土師質	皿	完形	11.8/4.9/2.5		回転横ナデ、回転糸切り	密	金・赤色粒子	橙	良
3	O トレンチ	土師質	皿	底部	-/6.2/-		回転横ナデ、回転糸切り	密	金・白色粒子	暗褐	良



I・II区を南方から望む



I・II区を東方から望む



I区全景（南から）



II区全景（南西から）



A トレンチ検出状況（南から）



A トレンチ土層断面（東から）



B トレンチ検出状況（南から）



C トレンチ検出状況（西から）



D トレンチ検出状況（西から）



E トレンチ検出状況（西から）



F トレンチ検出状況（西から）



G トレンチ検出状況（東から）



G トレンチ遺物出土状況



H トレンチ検出状況（西から）



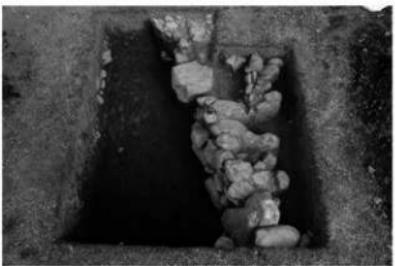
I トレンチ検出状況（北西から）



J トレンチ検出状況（西から）



K トレンチ検出状況（西から）



L トレンチ検出状況（南から）



M トレンチ石積（西から）



N トレンチ土層断面（北から）



Mトレーニチ検出状況（北から）



Mトレーニチ土層断面（北から）



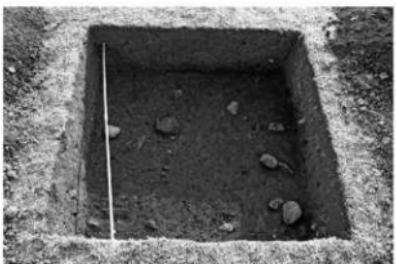
Nトレーニチ検出状況（北から）



Oトレーニチ検出状況（北東から）



Oトレーニチ土層断面（北東から）



Pトレーニチ検出状況（北東から）



Pトレーニチ遺物出土状況



Pトレーニチ土層断面（南東から）



Q トレンチ検出状況（北西から）



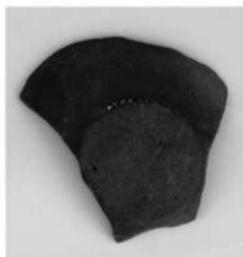
R トレンチ検出状況（北東から）



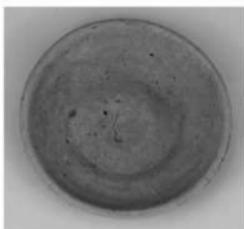
S トレンチ検出状況（南西から）



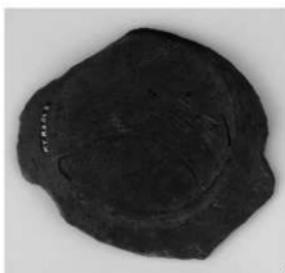
S トレンチ土層断面（南東から）



1



2



3

#### 4. 風間氏屋敷

(1) 所在地 甲州市塩山下於曾字一ノ坪 903、904、904-2、915-4

(2) 調査面積 23.1m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 令和3年1月8日～15日

(4) 調査原因 宅地造成

(5) 調査結果

当地は埋蔵文化財包蔵地「風間氏屋敷」の範囲に近接しているため、事前に試掘調査を実施して遺跡の残存状況を確認することとした。

対象敷地内に3ヶ所のトレンチ（A～C）を設定して調査を行った。

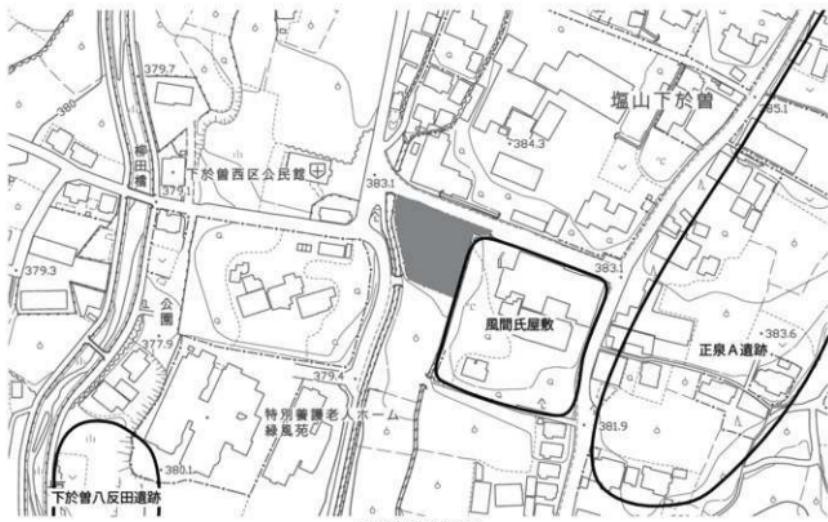
Aトレンチは6.4m×1.2mで設定した。地表下2.1mまで掘削し、地山と考えられる暗黄褐色土上で遺構精査を行った結果、遺構、遺物とも検出されなかった。

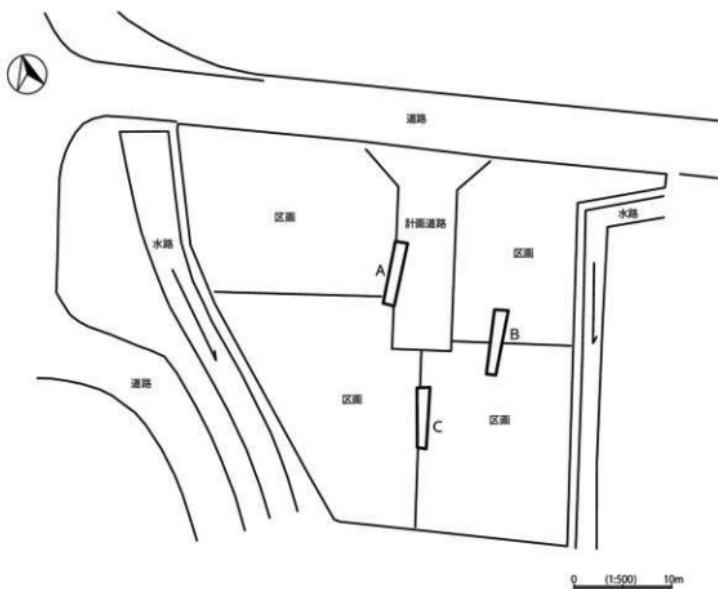
Bトレンチは6.6m×1.2mで設定した。地表下1.3mまで掘削し、地山と考えられる暗黄褐色土上で遺構精査を行った結果、遺構、遺物とも検出されなかった。

Cトレンチは6.3m×1.2mで設定した。地表下1.4mまで掘削し、地山と考えられる暗黄褐色土上で遺構精査を行った結果、遺構、遺物とも検出されなかった。

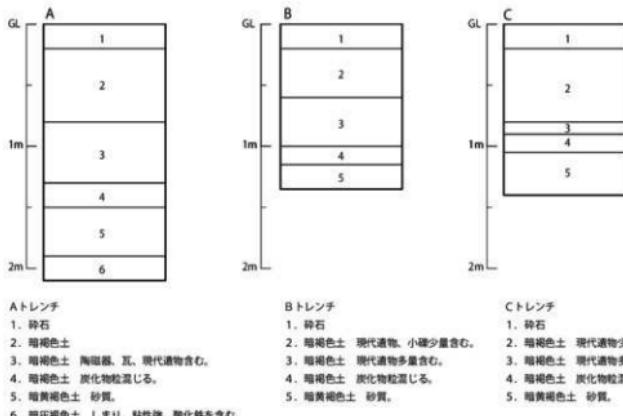
いずれのトレンチも表土から3層下面まで現代遺物が多く含まれていた。4層以下は搅乱を受けていない本来の地層であり、当地は1m前後の盛土が施されていることが判明した。

調査の結果、遺構・遺物とも検出されなかったため、本調査は実施しないこととした。





試掘トレンチ配置図



A～C トレンチ断面図



A ドレンチ精査状況（北から）



A ドレンチ土層断面（西から）



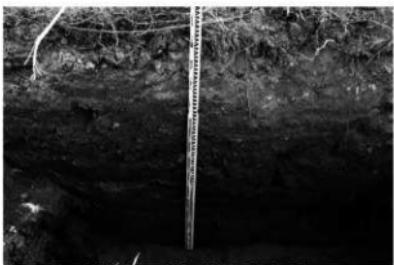
B ドレンチ精査状況（北から）



B ドレンチ土層断面（西から）



C ドレンチ精査状況（北から）



C ドレンチ土層断面（西から）

## 5. 前田 1152-1

(1) 所在地 甲州市塙山熊野字前田 1152-1

(2) 調査面積 26.5m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 令和 3 年 3 月 11 日～23 日

(4) 調査原因 集合住宅

(5) 調査結果

当地は埋蔵文化財包蔵地「熊野前田遺跡」に近接しており、遺跡の範囲が当地まで及んでいるか確認するため、試掘調査を実施して遺跡の範囲確認および残存状況を確認することとした。

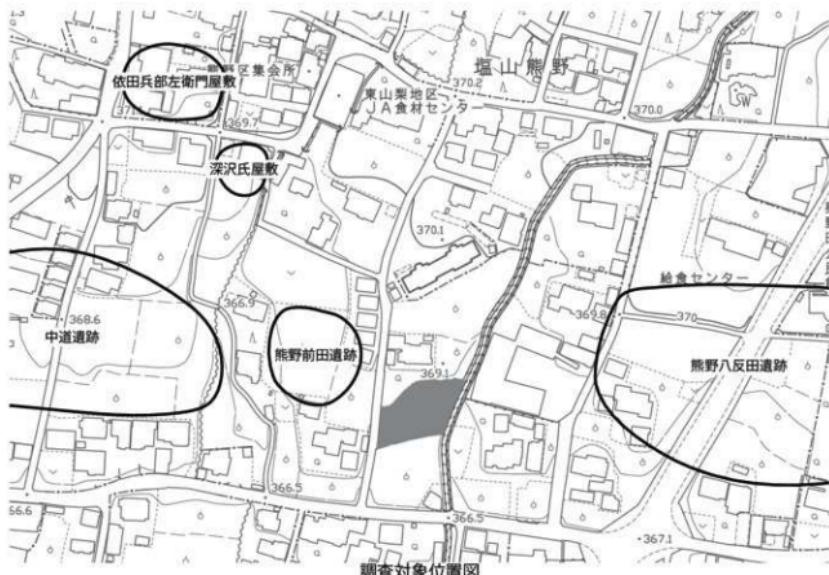
対象敷地内に 3ヶ所のトレンチ（A～C）を設定して調査を行った。

A トレンチは 6.6m × 1.1m で設定した。地表下 60～70cm まで掘削し、地山と考えられる灰白色砂層上面で遺構精査を行ったが、一部に落ち込みがみられたものの、遺構は検出されなかった。遺物は表土中から土器小片を 1 点検出した。

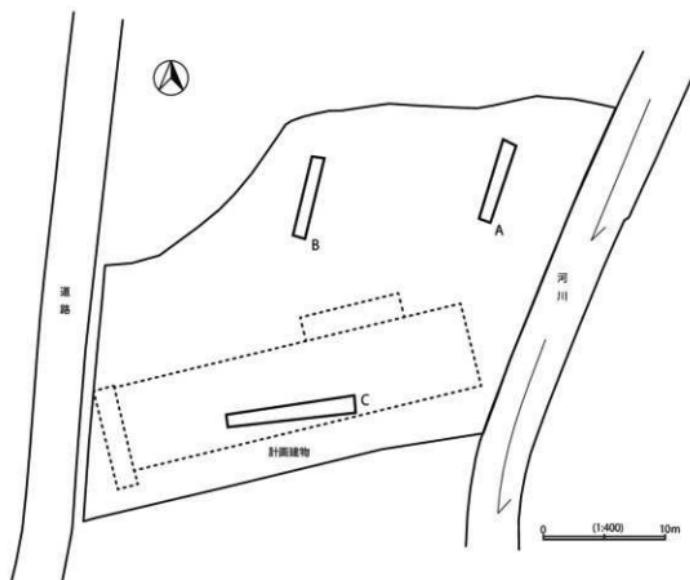
B トレンチは 6.7m × 1.0m で設定した。地表下 70cm まで掘削し、地山と考えられる褐灰色砂層上面で遺構精査を行ったが、一部に礫のまとまりや落ち込みはみられたものの、遺構は検出されなかった。遺物は表土中から土器小片を微量検出した。

C トレンチは 10.5m × 1.2m で設定した。地表下 80～90cm まで掘削し、地山と考えられる褐灰色砂層上面で遺構精査を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は表土中から土器、須恵器、磁器小片を微量検出した。

調査の結果、どのトレンチからも遺構は検出されなかった。A、B トレンチから落ち込みに黒色の砂質土が堆積していたが、河川に隣接した立地であることから、水流によって削られた地山に黒色砂質土が流れ込んだもので、遺構ではないと判断した。遺物は各トレンチから小片が微量検出されたが、表土中からのもので摩耗しており、周辺からの流れ込みと考えられる。以上のことから敷地内に遺跡の存在は認められず、本調査は実施しないこととした。

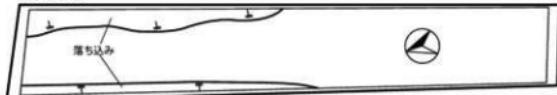


調査対象位置図



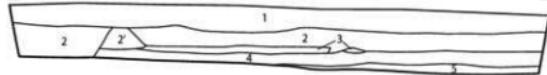
試掘トレンチ配置図

A トレンチ



A

A'



A トレンチ

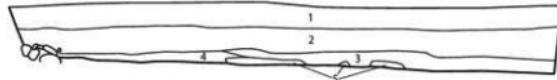
1. 灰黄褐色砂質土 しまり弱、粘性弱、表土。
- 2・2' にぶい黄褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、砂粒少含、酸化鉄少含む。
3. 灰黄褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、黒色土が層状に1枚ある。
4. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、酸化鉄少含む。
5. 灰白色砂 しまり、粘性弱。

B トレンチ



B

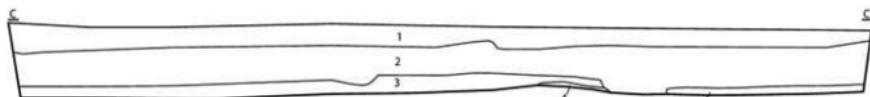
B'



B トレンチ

1. 灰黄褐色砂質土 しまり弱、粘性弱、表土。
2. にぶい黄褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、砂粒少含、酸化鉄少含む。
3. 黒褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、酸化鉄含む。
4. 黑褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、酸化鉄多含む。黄褐色の砂粒を多く含む。
5. 褐灰色砂 しまりあり、粘性弱、酸化鉄少含む。

C トレンチ



C トレンチ

1. 灰黄褐色砂質土 しまり弱、粘性弱、表土。
2. にぶい黄褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、砂粒少含、酸化鉄少含む。
3. 黑褐色砂質土 しまりあり、粘性弱、4層の砂と含む、酸化鉄含む。
4. 褐灰色砂 しまりあり、粘性弱、酸化鉄少含む。

0 (160) 1m

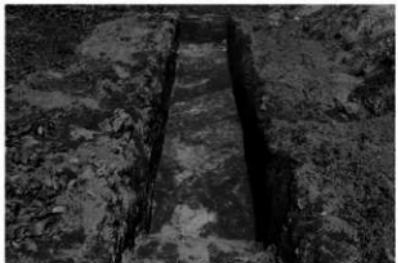
A～C トレンチ平断面図



A トレンチ精査状況（南から）



A トレンチ土層断面（北西から）



B トレンチ精査状況（南から）



B トレンチ土層断面（北西から）



C トレンチ精査状況（東から）



C トレンチ土層断面（南西から）

## 6. 於曾屋敷遺跡

(1) 所在地 甲州市塙山下於曾字元旗板 526-1、527-1

(2) 調査面積 25.6m<sup>2</sup>

(3) 調査期間 令和3年3月17日～23日

(4) 調査原因 駐車場

(5) 調査結果

当地は埋蔵文化財包蔵地「於曾屋敷遺跡」の範囲に含まれており、駐車場建設にかかる境界壁を設置する工事が計画されたため、事前に試掘調査を実施して遺跡の残存状況を確認することとした。

対象敷地内に3ヶ所のトレンチ（A～C）を設定して調査を行った。

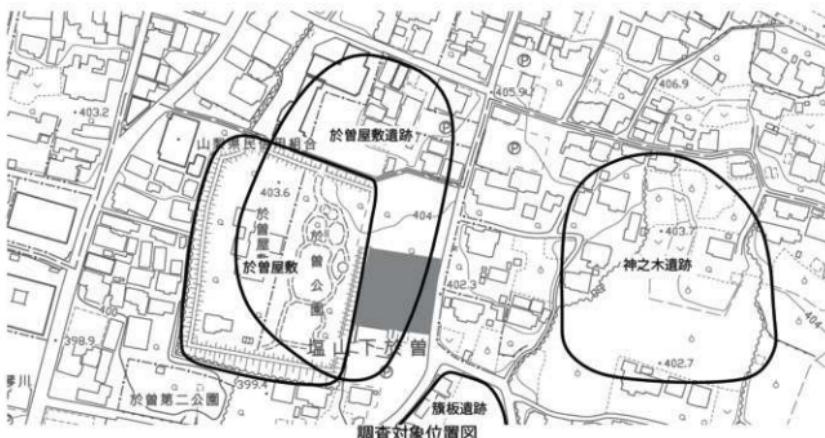
Aトレンチは9.1m×1.0mで設定した。地表下90cmまで掘削し、地山と考えられる明黄褐色砂質土層上面で遺構精査を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は表土中から土器・須恵器・磁器・瓦片・黒曜石片を微量検出した。

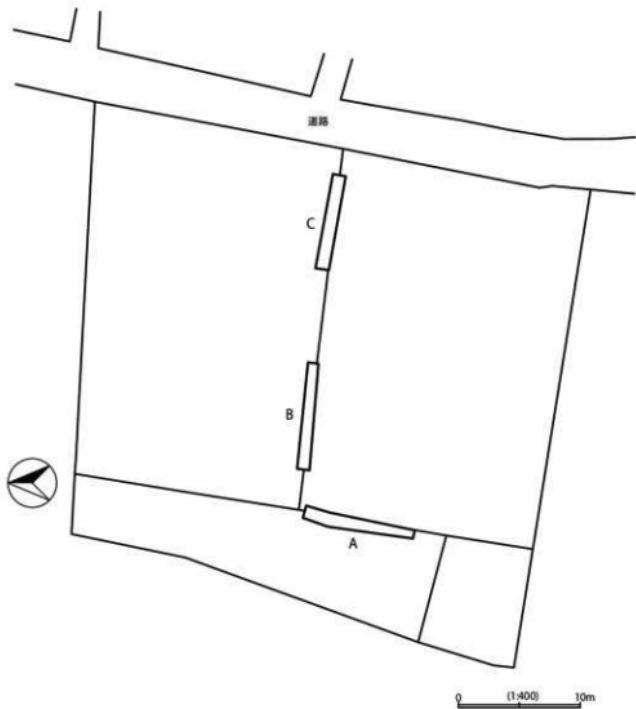
Bトレンチは8.7m×1.0mで設定した。地表下80cmまで掘削し、地山と考えられる黄褐色土層上面で遺構精査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

Cトレンチは7.8m×1.0mで設定した。地表下20-30cmまで掘削し、地山と考えられる灰黄褐色砂質土層上面で遺構精査を行ったが、遺構は検出されなかった。遺物は表土中から土器片を微量検出した。

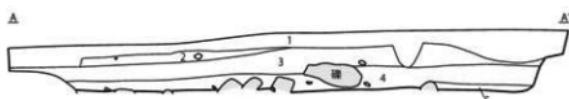
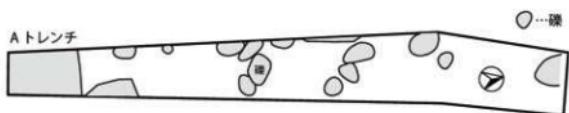
調査の結果、どのトレンチからも遺構は検出されなかった。県史跡於曾屋敷の東辺には北東側から南流する「権兵衛川」がかつて存在していたが、これに近いAトレンチ下層からは河川由来によるものと考えられる円礫が顕著にみられた。遺物はAトレンチおよびCトレンチから検出している。古代・中世のものも含まれるが、いずれも小片で摩耗しており、流れ込みの遺物と考えられる。遺物は2点を図示した。1は土師質皿で中世、2は焙烙の破片で近世の資料と考えられる。

境界壁設置部分について遺跡の存在が確認されなかっただため、本調査は実施しないこととした。





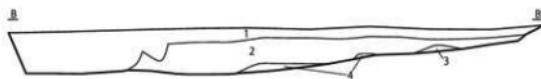
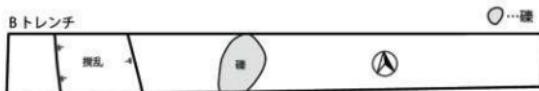
試掘トレンチ配置図



- Aトレンチ
1. 褐灰色土 しまり弱、粘性あり。
  2. 灰白色砂 しまり弱、粘性弱。
  3. 灰黄褐色土 しまりあり、粘性あり。
  4. 褐灰色土 しまりあり、粘性あり。直徑 5~100cm の礫を含む。河川由来の層。
  5. 明黄褐色砂質土 しまりあり、粘性弱。地山

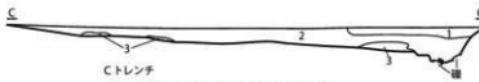
Aトレンチ断面図

0 (1:80) 2m



- Bトレンチ
- 褐色土 しまり弱、粘性あり。
  - 灰褐色土 しまりあり、粘性あり。
  - 灰黄色土 しまりあり、粘性あり。黄褐色砂質土 (10YRS/6) ブロックを含む。
  - 黄褐色土 しまりあり、粘性あり。地山

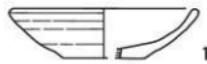
Cトレンチ



- Cトレンチ
- 黄褐色土 しまりあり、粘性あり。整地層か
  - 灰黄色土 しまりあり、粘性あり。
  - 灰黄色砂質土 しまり強、粘性あり。地山

0 (1:20) 2m

B・Cトレンチ平断面図



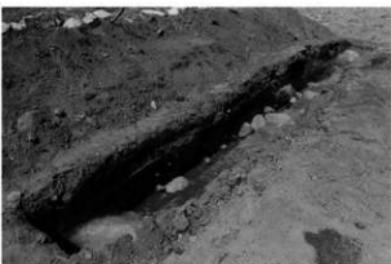
於曾屋敷遺跡出土遺物 0 (1:3) 10cm

於曾屋敷遺跡出土遺物観察表

番号	出土地点	種別	器種	残存	法量 (cm)	調整	胎土	含有物	色調	焼成
					口径 / 底径 / 器高					
1	Aトレンチ	土師質	皿	底部～口縁、摩耗	(11.6)/(5.0)/3.1	(内)回転横ナデ、(外)回転ヘラナデ、(底)回転糸切り	密	金・白・黒色粒子	橙	良
2	Pトレンチ	土器	焰烙	底部～口縁	(38.0)/(36.0)/5.2	回転横ナデ	密	金・白粒子	(外) 黒褐・(内) 褐	良



A トレンチ確認状況（南から）



A トレンチ土層断面（南東から）



B トレンチ確認状況（西から）



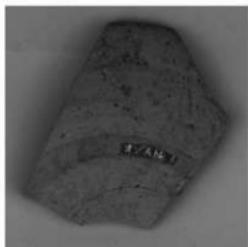
B トレンチ土層断面（南東から）



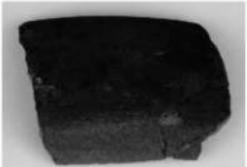
C トレンチ確認状況（西から）



C トレンチ土層断面（南東から）



1



2

# 報告書抄録

ふりがな	れいわにねndoしないiせkiはっくつちょうsaとうjiぎょうほうこくsho
書名	令和2年度市内遺跡発掘調査等事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第33集
編著者名	入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒404-0045 山梨県甲州市塙山上塙後240 電話 0553-32-5076
発行年月日	令和4年3月25日

ふりがな	ふりがな	コード	世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しおざわ 606-1 他	甲州市塙山赤尾字 浜沢 606-1,609-1	19213	なし	35° 70' 31"	138° 73' 86"	令和2年 8月4日～ 7日	8.9m <sup>2</sup>	店舗建設
せんじゅうじんせんせいせき 千手院前遺跡	甲州市塙山上塙後字 千手院前 757-1,759, 759-2,760,762, 787-1,791-1,793-1		塙-59	35° 70' 55"	138° 71' 45"	令和2年 8月25日～ 9月1日	32.7m <sup>2</sup>	宅地造成
かちよしやまのあひ 勝沼氏館跡	甲州市勝沼町勝沼字 水上屋敷 2420,2421, 2456		勝-40	35° 65' 74" 35° 65' 84"	138° 73' 44" 138° 73' 43" ※上I区、下II区	令和2年 12月7日～ 令和3年 3月3日	98.3m <sup>2</sup>	確認調査
かづましやじゆ 風間氏屋敷	甲州市塙山下於曾字 一ノ坪 903,904,904-2, 915-4		塙-205	35° 69' 77"	138° 72' 63"	令和3年 1月8日～ 15日	23.1m <sup>2</sup>	宅地造成
まえだ 前田 1152-1	甲州市塙山熊野字 前田 1152-1		なし	35° 69' 04"	138° 73' 79"	令和3年 3月11日～ 23日	26.5m <sup>2</sup>	集合住宅
おとせやま まいせき 於曾屋敷遺跡	甲州市塙山下於曾字 元旗板 526-1,527-1		塙-50	35° 70' 29"	138° 73' 32"	令和3年 3月17日～ 23日	25.6m <sup>2</sup>	駐車場

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
浅沢606-1ほか	包蔵地外	—	なし	なし
千手院前遺跡	集落	縄文	竪穴、土坑、溝	縄文土器、石器
勝沼氏館跡	城館	中世	石積	土器、陶磁器、瓦、ガラス
風間氏屋敷	城館	中世	なし	なし
前田1152-1	包蔵地外	—	なし	土器、須恵器、磁器
於曾屋敷跡	集落	平安・中世	なし	土器、須恵器、磁器、瓦、石器

山梨県甲州市  
 令和2年度市内遺跡発掘調査等事業報告書  
 2022  
 発行 甲州市教育委員会  
 住所 山梨県甲州市塩山上塩後240  
 電話 0553-32-5076  
 発行日 令和4年3月25日  
 印刷 中央印刷



